

令和4年度(2022年度) 島根県立大学 国際関係学部 国際関係学科 国際関係コース 一般選抜(前期日程) 小論文

【試験時間 90分】

○次の文章は、2016年5月27日にアメリカのバラク・オバマ大統領(当時)が広島を訪問し、そこで行った演説の全文である。この文章を読んで、との問いに答えなさい。

71年前、雲ひとつない晴れた朝、死が空から降り、世界が変わりました。閃光と炎の壁が街を破壊し、人類が自らを滅ぼす手段を手にしたことを証明したのです。

[A]なぜ私たちはここ、広島を訪れるのでしょうか。私たちは、それほど遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせるために訪れるのです。10万人を超す日本の男性、女性、そして子どもたち、何千人もの朝鮮半島出身者、十数人の米国人捕虜を含む死者を追悼するために訪れるのです。彼らの魂が私たちに語りかけます。心の中に目を向け、私たちが何者なのか、これからどのような存在になり得るのかをよく考えるよう求めているのです。

(中略)

広島と長崎において残酷な結末を迎えた先の世界大戦は、最も豊かで、最も力のある国々の間で戦われました。(中略)その大戦は、最も単純な部族間の紛争の原因でもあった、支配したい、征服したいという衝動と同じ卑しい衝動から生じたのです。そのパターンは新たな制約のないままに、新たな能力によって増幅されたのです。数年の間に、およそ6000万人の人たちが亡くなりました。

(中略)

物質的な進歩や社会的革新によって、私たちはいくたびこの事実を見失うのでしょうか。より高邁な大義の名の下に、なんと簡単に暴力を正当化してしまうようになるのでしょうか。偉大な宗教はすべて、愛、平和、正義への道を約束しています。しかし、いかなる宗教も、自身の信仰を殺人の許可証だと主張する信者たちから免れてはいません。国家が成立するとき、犠牲と協力の下に人民を結束させる物語が語られ、偉大な行為が可能になります。しかし、まさにその同じ物語が、自分たちとは異なる者たちを抑圧し、その人間性を奪うのに利用されることも、あまりにも多かったのです。

(中略)

だから私たちはこの場所に来るのであります。ここに、この街の中心に立ち、あの爆弾が落ちた瞬間を想像することを自らに強いるのです。目にした光景に混乱した子どもたちの恐怖を、自ら進んで感じようとするのです。声なき叫びに耳を傾けるのです。私たちは、あの一連の凄惨な戦争と、それに先立つ戦争と後に続いた戦争によって亡くなった、すべての罪なき人々を思い起こすのです。ただの言葉では、そのような苦しみを言い表すことはできませんが、私たちには歴史を直視し、のような苦しみの再発を防ぐために、どうやり方を変えなければならないかを問う、共同責任があります。

(中略)

いつか、証言をする被爆者の声をもはや直接聞くことができなくなる日がきます。しかし、1945年8月6日の朝の記憶を決して風化させてはなりません。その記憶があれば、私たちは、現状に甘んじようとする心と戦えるのです。私たちの道義的な想像力がかき立てられ、私たちは変わるこ

とができるのです。

(中略)

相互依存の高まりが暴力的な競争の動機になるのではなく、平和的な協力を生むものだと考えるために。そして、私たちの国々を、破壊する能力によってではなく、何を築き上げるかによって定義づけるために。そうしなければなりません。

(出典:『CNN English Express』編集部『[対訳]オバマ広島演説』朝日出版社、2016 年、10-33 頁。なお、出題に際して語句を改めていたり、一部を省略している箇所がある。)

問 1 下線部[A]について、私たちが広島を訪れる理由は何であると演説者は語っているでしょうか。文章中の内容や語句を用いて、200 字以内で述べなさい。その際、「それほど遠くない過去に解き放たれた恐ろしい力に思いをはせる」ことの具体的な内容を含めること。

問 2 下線部[B]について、これまで国際社会や備蓄核兵器を保有する国々の間で成立した、「核兵器を制限し、徐々に縮小し、最終的には廃絶する」のを目指すことに関わる機構や条約のうち、任意にひとつの具体的な機構や条約を取りあげて、その内容を 200 字以内で略述しなさい。

問 3 下線部[C]で述べているように、私たちは「戦争そのものに対する考え方」を変えなければならないのでしょうか。また、「戦争そのものに対する考え方」をえるとすれば、従来のどのような考え方からどのように変えなければならないのでしょうか。これらのことについて、文章の内容やあなたのこれまでの経験、学習内容を踏まえて、600 字以内で述べなさい。